

〔川崎医療福祉学会ニュース〕

## 川崎医療福祉学会 第10回 研究集会プログラム

平成8年6月5日  
座長 太湯 好子

### 研究発表

1. 高齢者のアクアエクササイズプログラムが血圧に与える影響  
健康体育学科 ※小野寺 昇 木村 一彦 宮地 元彦
2. 健康学習による「たばこ対策」の効果  
医療福祉学科 宮原 伸二
3. 学生教育における《QOL》という用語の紹介について  
医療福祉学科 近藤 功行
4. 言語と知識  
臨床心理学科 林 明弘
5. 学生が構築する医療情報システム  
—— カルテ貸出管理システムを例にして ——  
医療情報学科 ※上田 智 格和 勝利  
※印：発表者

学会運営委員長挨拶 大 羽 葵 副学長

### 発表要旨

#### 高齢者のアクアエクササイズ プログラムが血圧に与える影響

健康体育学科 小野寺 昇 木村 一彦 宮地 元彦

水中では、水の物理的特性の影響を受け、陸上とは異なる生体反応を示す。安静時だけでなく運動時にも血圧と心拍数は、陸上と比較し低値を示すとされる。しかしながら中高年者は、必ずしもそうではない。そこで、若年者と中高

年者を比較した。中高年者の心拍数は、水中運動直後に有意に低下したが、血圧は、上昇傾向にあった。水中での血圧の変化は、血管弾性等に深く関わることが示唆された。

#### 健康学習による「たばこ対策」の効果

医療福祉学科 宮原 伸二

長期の総合的な健康学習の実践による喫煙率への影響をみた報告である。対象地区の高知県西土佐村での活動前後の10年間の喫煙率は男で

は53.5%が44.3%に、女では8.9%が3.8%にと減少した。その数は喫煙者の約20%が禁煙したことになる。

村内30の地区において年間300回以上、10年で3000回以上の健康学習会を持ち、住民が健康づくりに対応する力をつけたためと思われる。今

後は個別の禁煙指導やニコチンガムなどニコチン依存対策なども実施して喫煙率25%の村をめざす。

### 学生教育における《QOL》という用語の紹介について

QOLに関する教育を行うのにあたって、その意味を確立し教育効果を検討することの他に、教育を受ける対象者の下地について理解を深めることが必要である。そこで、まず市販の書籍を分析してQOLの訳出状況がどうなっているの

医療福祉学科 近藤 功行

かを調査した。また、医療福祉教育を受けている学生のQOLに対する認識を調べ、自主学習を行かせた上でQOLに対する認識がどう変化するかを追った。自主学習後の流れからは3つの変化がみられた。

### 言語と知識

言語が知識をどうやって表現できるのかについて困難が存在する。絵や音の知識は言語で表現できない。語については類概念に種差を加えるという明示的定義は知識の正当化にはならない。文についても、一つの文が複数の人間に同

臨床心理学科 林 明弘

意されても、同一の内容が了解されているとは限らない。一つの文に一つの知識が対応していない。これらは言語が記号であることに起因するが、言語と実在が直接リンクする直示的定義も言語的理解が先行する。

### 学生が構築する医療情報システム

#### — カルテ貸出管理システム —

本学科では3年次生の医療情報学実習(必修)を学生主導型教育の基本方針に基づき自主学習によるグループ学習で、問題解決型教育を実践しシステムの創作を行っている。

病院見学を行い病院現場の業務分析に基づきシステムの企画書を作成しシステムの制作を行い、結果はインターネットを経由して学外に発

医療情報学科 上田 智 格和 勝利

信する。更に特定病院と作品の納入契約を結び病院現場での業務にシステムを利用して頂く仕組みのなかで教育を行っている。

今回はカルテ貸出管理システムを制作しカルテのアライ管理と統計データの提供を目的にシステムを構築した。